

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100082		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長崎ケアハートガーデン グループホーム小ヶ倉 1F		
所在地	長崎県長崎市小ヶ倉3丁目7346-27		
自己評価作成日	令和5年12月14日	評価結果市町村受理日	令和6年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 6年 2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所内はバリアフリーに配慮しておりゆったりとした空間作りと解放感のある共用スペースがありUSENを設置しており、場面、場面に合った曲を流したり、リラクセスした雰囲気になるよう工夫しています。また、各所に消毒液や空気清浄機を設置しており、ウイルス等、汚染に対し配慮しています。職員はセンター方式を採用しており利用者の生活歴、表情や仕草、言葉を記録に残しその人らしい生活を送れるよう支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、センター方式を採用し、24時間シートで得た利用者の言動から本人をより良く理解し、介護計画へ反映している。入浴は毎回の湯の張替と、介護度に合わせ機械浴を併用し肩まで浸かることができている。食事は職員の手作りで、誕生日はその日に祝う等、一人ひとりを尊重した支援に努めている。利用者コロナ陽性者が一人も出なかったことは、面会自粛に協力した家族と、職員の尽力の賜物である。主治医が毎日往診に訪れて、連携が取りやすいことから看取り支援の事例も多い。新人職員には、管理者が1年に渡り、精神面を含めサポートし、結果は支店長へ届く等、職員を育てる体制を整備している。職員は理念を支援の要として捉え、寄り添うケアに努めている。職員の優しい言葉掛けには、利用者からねぎらいの言葉が返ってきている。職員のチームワークも良く、理念の具現化に向け、利用者と真摯に向き合っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有と意識づけができるよう、朝礼時に職員が理念の唱和を行い、業務に取り組んでいます。	理念4項目を毎朝唱和しており、職員は支援の要と捉えている。新人職員には、法人のオリエンテーション後に、先輩職員が指導を行っている。職員が利用者にかける言葉は、丁寧で穏やかである。センター方式を採用し、日々の言動から利用者の人となりを知ることで支援に繋ぐ等、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により制限もあるが、敬老の日など行事の前には子供たちと交流を続けている。	町内会長から情報を得て、コロナ禍で中断していた地域の祭りに職員が担ぎ手として参加し、活性化に一役買っている。敬老会では園児が訪れ、利用者はガラス越しに園児の歌や踊りを楽しんでいる。今後、感染状況を見ながら、中学生、高校生の福祉体験や認知症サポーター養成講座等を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館を利用し、認知症についての講演などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開かれ、意見交換やアドバイスを受けサービス向上に活かしている。	年6回、地域有識者や家族代表を構成委員として、コロナ感染状況に応じ書面会議や対面会議を実施している。議事録は全家族へ送付している。委員である主治医から感染状況の説明や的確な助言を得ている。市職員が、他事業所の消防訓練の事例紹介をしたり、町内会長から地域の情報を得たりと、サービス向上に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の代表が県や市の担当者と連絡を取り、協力関係を築けるよう努めている。	利用者の状況や支援に関し、市担当課と情報共有を行っている。事業所の状況報告の他、運営上の不明点は電話や書面で尋ね、必要な情報を得ている。制限中の介護相談員受入れを再開の予定である。県のアンケートに応じたり、防護服着用方法のオンライン研修に参加する等、行政と協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を、定期的に行っている。理解したうえで、身体拘束にならないケアに努めている。	身体拘束適正化の為の指針を整備している。ホーム長、管理者、職員2名を委員とし、年4回、身体拘束廃止委員会にて事例検討を行い、同時に勉強会も実施している。特に職員の言葉遣いには日頃から注意喚起している。また、家族の協力を得ながら帰宅願望の原因の検討し、センサー使用時は、必ず家族に同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修等の中から学び、利用者の観察に重点を置いて、管理者、スタッフ間で情報共有に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修(ミーティング)時に学ぶ機会を作り、参加できないスタッフにも回覧研修を実施し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご利用者様・ご家族に説明し、了承を得た上でサインを頂き、質問があれば口頭にて説明を行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議議事録、毎月のお便りを発行し、面会時は電話にてコミュニケーションをとり、日頃からの意見、要望をお聞きし、運営に反映させる様にしている。	入居時にホーム長が、家族に重要事項説明書の苦情の外部申し出先について説明している。ユニット毎に、利用者の写真を掲載した便りを作成し、家族へ送付している。また利用者の健康状態等に変化があった場合は、家族に連絡している。ただし、現在、家族の面会は窓越であり、テレビ電話等も活用していない。	コロナが5類へ移行した現在も、家族と利用者との面会は自由に行えない状況である。家族の不安を軽減する方法の検討が待たれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議でも常に意見要望を聞く機会を設け、反映させている。	職員は、日常的に管理者へ意見や要望を伝えている。電気製品の買い換えの要望やセンサー音について提案が出ている。職員は、年1回の面談の前に自己評価を行い、面談では受講したい研修の希望等を伝えている。資格試験に合格した際は祝金制度があり、職員の意見を反映し、育成していく体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に自己評価を行い面談を行って、目標、要望、やりがいなどを聞き、向上心を持って働けるよう、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行い、研修を受けやすい環境を整え、研修内容については勉強会で報告し、他スタッフとも共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響の為、勉強会の研修に参加する頻度が減っているが、リモートでの研修に参加し交流や意見交換を行った。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを出来るだけとり、ご本人が今、何に困っているのか、不安なこと、要望を引き出し、ご本人様に安心して頂けるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナウイルスの影響のため、窓越しのご家族と会話をする中で、困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族には、面会(窓越し)の際に必ず近況報告をすると共に、今現在、家族は何を支援してほしいのかを見極めサービス内容を支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事、出来ない事を把握し、職員と一緒にお手伝い等を行って頂き、共に支えあっていく関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での生活をご家族に報告し、ご家族ができる事はお願いし、一緒に支えていけるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や写真が来たら、お見せしてお話したり、電話をおつなぎしたりしている。	利用開始時、家族が利用者の生活歴を記入し、その後判明した情報を職員が加筆している。知人から手紙や贈り物が届いた際は電話でお礼を伝え、家族に報告している。個人で新聞を講読している利用者や愛用の化粧水を居室に置いている利用者もいる。定期的に訪問美容師が訪れ、カットやパーマも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲がいい利用者同士は隣に座って頂いて、会話を楽しんで頂いたり、洗濯物をご利用者と一緒に出来る様に環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、電話にて、ご本人、家族の経過をフォローしながら、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションの中で、一人ひとりの希望や思いを聞き、意向の把握に努め、ご家族と相談しながら本人本位に検討している。	起床や就寝の時間は自由である。起床時にその日に着る衣服を本人が選択できるように支援しており、利用者の意向を大切にしていることが窺える。難聴の利用者には、耳元で優しく話し掛けている。センター方式の24時間シートを毎日記録しており、本人の思いを記入し、職員間で共有をし支援に役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にセンター方式のシートをご家族に記入して頂きご本人様との会話の中でも生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康チェックと、センター方式のD4シートに記入を行うことで、一人ひとりの1日の過ごし方。心身状態の変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様との日々の会話の中や、言動にも手がかりを見つけ、ご家族面会時などに意見やアイデアも頂き、現状に即した介護計画を作成している。	センター方式を採用し、利用者の日々の言動を詳細に記録している。家族の意見は面会時や電話で尋ね、長期1年、短期6ヶ月の介護計画を作成し了承を得て実践している。ケア会議では、担当職員が評価表を準備し、全職員が評価、検討を行っており、PDCAサイクルが機能している。利用者がその人らしく暮らすための介護計画である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアの実践については排泄チェックに記録に残しており、利用者の行動、言動の意味に対しては、気づきやその時の気持ちを、日々の記録に残し、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況、変化に対しては、ご家族の状況も踏まえながら、出来る範囲内で柔軟なサービス提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響もあり地域の方々へ向けて活かせることが少なくなったが、スタッフが地域のお祭りに参加することで、お祭りの事を話す機会が出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入所前より、かかっておられた主治医の往診を希望される方には、かかりつけ医との良好な関係を続けられるよう支援している。また、紹介する主治医も数名おり、ご家族との相談のうえ適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前のかかりつけ医を尊重する他、協力医療機関の主治医が往診に訪れている。また、毎月心療内科医の往診がある。他科を含め、受診支援は、緊急時を除き原則、家族対応であり、受診結果は、主治医や家族から報告がある。複数の医療機関と連携しており、主治医のもと適切な医療体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや看護日誌などに看護師との情報の共有を行っており、医療に関しては、看護師に相談し、主治医の指示のもと支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	複数の医療関係と連携しており、入院された場合、面会時病院関係者（医療ソーシャルワーカー等）と情報交換を行い、早期の退院に向けての相談に努めています。又、緊急時は、リモートで相談できる機関を確保している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で重度化した場合、終末期については、ホームの方針を伝えている。重度化した場合は、早い段階で、今後の対応について主治医も含めて、ご家族の意向も踏まえながらホームが出来る事を十分に説明し、支援に取り組んでいる。	1月以降、複数の看取り支援を行っている。契約時、重度化した場合の対応に係る指針を家族に説明し同意を得るとともに、本人の意思が聞ける時は記録している。重度化に伴い、主治医から家族へ説明を行い方針を決めている。看取り支援前に、主治医から職員へ助言があり、看取り後に振り返り、職員の不安軽減に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命、応急のマニュアルを設置しており、いつでも見れる状態にある。利用者各自の急変時の対応をスタッフがいつでも確認できる場所に配置してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害対策として、災害対策マニュアルとの配置と緊急連絡網を作っている。災害時の緊急避難場所として、月のいずれかを1回通報訓練・避難誘導訓練・消火器訓練も行っている。	毎月、昼夜間想定のお知らせ、初期消火、避難誘導等の自主訓練を利用者も参加し実施している。年2回、併設施設合同で消防署立会の火災訓練を行っている。訓練後の総評は次の訓練へ活かしている。自然災害対応のマニュアルを備え、利用者個々の持出用のバッグや基本情報シートを準備し、備蓄として水や食料品も備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の生活歴を知ったうえで、一人ひとりの人格を尊重し、場合によっては、周りに人がいない所で話するなど、プライバシーへの配慮を行っている。	利用者の呼び方は、苗字にさん付けである。排泄等の支援をする際には、「お手伝いさせていただきます」と声を掛けており、利用者の人格を尊重した支援を行っている。利用者の記録は、外部から見えない棚に保管し、職員の守秘義務について、誓約書の提出を義務付けている。利用者の写真の使用についても同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で、思いや希望を聞いたり、特に衣類などはお好みの物を、ご利用者様が選択できる場面を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、ご利用者様の意見や行動を確認しながら、一人ひとりのペースで過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室に来て頂き、ヘアカラー、パーマなど、その人らしいおしゃれができる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材と一緒に切って頂いたり、毎日、本日のメニュー表を準備し見て頂くことで、食事を楽しんで頂いている。	職員が献立と調理を行い、利用者と食卓を囲み同じ食事を取っている。本人のアレルギーや好き嫌いを把握し、調理法を変える等の対応している。誕生日は、当日にケーキで祝っている。季節毎の行事食やおやつにも心を配り、時には、日光浴を兼ねて、ウッドデッキで弁当を食べ、日常とは違う環境で食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取をチェック表へ記入することで、一人ひとりの摂取量の確認ができ、状態に応じた食事形態を提供支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声掛け、口腔内確認で口腔ケアの介助支援を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入を行いながら、排泄パターンの把握に努め、訴えがない方も、言動からトイレのタイミングをつかめるようにしている。	昼間は、トイレでの排泄を基本とし、ポータブルトイレの使用は夜のみとしている。パッド類は、人目につかないよう収納しており、失敗した場合には自尊心に配慮し、さりげなく別の話題にて介助を行っている。睡眠時間の確保を優先し、パッドのサイズを変更する場合もある。ケース会議では利用者毎に、パッドの種類を検討し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつを水分の多い果物やゼリーを作って提供したり、水分をとる機会を増やしている。又、個別ケアでここに合わせた運動の機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、2日に1回は入って頂くが、希望されるときは毎日だったり、その時間に合わせ入浴を実施し、お湯も毎回張替えることで、誰もが一番風呂で入れるようにしている。	規程では、一週間に3回以上の入浴であるが、毎日入浴する利用者もいる。浴槽の湯は、利用者毎に入れ替えている。機械浴を導入し、利用者全員が浴槽に浸かることができている。足のマッサージをしたり、5月には菖蒲湯で足浴を実施してリラックスできる時間を作っている。浴室では、歌を歌ったり、昔話を楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、リビングや居室で好きなように過ごして頂いたり、その時々の状況に応じて、レクリエーションに参加したり、個別の取り組みを行ったり、居室で休息をしていただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報で働きがわかるものを各利用者様のファイルに保管確認し、職員が確認できるように整えています。ご利用者様の薬の追加、変更等があった時には、申し送りにて伝達しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、ご利用者様の生活歴、できる事、できない事を情報共有し、ご利用者様が役割を持って張り合いや喜びのある生活ができるように支援していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響のため、外出は行うことが出来なかったが、天気が良く暖かい日にはウッドデッキに出て日光浴をして頂いている。	コロナ禍で、事業所では数年外出を控えている。ウッドデッキで日光浴を兼ねて、弁当を食べたり、庭のツツジを鑑賞し、外気に触れる機会を作っている。紫陽花の鉢植えをリビングに飾り、季節感を感じることができるよう配慮している。町内の祭りでは、川船を見物している。ただし、コロナ禍以前に行っていた外出の再開はこれからである。	感染症の状況をみながら、感染防止の措置を優先しつつ、利用者の楽しみである外出の機会を増やす工夫に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持されている方は、いらっしやらない。希望があれば添うような支援はしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様宛てに届いた郵便物を職員よりお渡ししたり、ご利用者様の希望があれば、電話でのやり取りができる支援体制を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・四季の花や野菜を玄関の農園に植えたり、リビングに絵を飾る等している。 ・全ての窓にフィルムを貼り、室内の温度を調整すると共に激しい日光の光を遮断している。	リビングには、雛飾りや壁面の貼り絵で、季節感を大切にしていることが窺える。テレビ前にソファを置き、ゆっくりと視聴できる工夫がある。バルコニーでは花見や菖蒲の足湯等、季節に応じた催しを行っている。長い廊下は利用者の歩行訓練に活用している。毎朝の清掃と空調管理、噴霧消毒で、清潔感のある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席は、気の合った方同士が、一緒に座れる様に、席を考え工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より馴染みのある物、使い慣れた家具など出来るだけ、持って来て頂き、思い思いに過ごせる様にしている。	居室ドアには、名字の他、花や鳥の名前の表札を掲げ、日本旅館風の風情である。写真や化粧品等や自宅からソファやテレビを持ち込み、思い思いに配している。居室では、ゆっくりと好きな演歌を視聴する利用者がいる。居室は24時間換気設備や排泄交換時の脱臭機を設置し、快適な居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はして頂き、出来ない所はお手伝いしながら、安全かつ自立した生活に近づける様、工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100082		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長崎ケアハートガーデン グループホーム小ヶ倉 2F		
所在地	長崎県長崎市小ヶ倉3丁目7346-27		
自己評価作成日	令和5年12月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所内はバリアフリーに配慮しておりゆったりとした空間作りと解放感のある共用スペースがありUSENを設置しており、場面、場面に合った曲を流したり、リラックスした雰囲気になるよう工夫しています。また、各所に消毒液や空気清浄機を設置しており、ウイルス等、汚染に対し配慮しています。職員はセンター方式を採用しており利用者の生活歴、表情や仕草、言葉を記録に残しその人らしい生活を送れるよう支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有と意識づけができるよう、毎朝、申し送り時に職員が理念の唱和を行い、業務に取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により制限されることも多く、交流が難しくはあったが、地域の保育園の園児などが来て下さり、歌を披露して下さるなど、少なくはあるが交流はあった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響もあり地域の方々へ向けて活かせることが少なくなったが、運営推進会議を定期的に行っており、地域の方々にも、認知症の理解や説明を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響の為、運営推進会議の開催が少なくなり、文書や電話にてアドバイスを受けサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルスの影響の為、直接意見交換を行うことができなかったが、文書や電話にてアドバイスを受けサービス向上に活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては夜間帯以外は行っていない。身体拘束委員会もあり身体拘束はしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などがある時は職員にリモートにて参加してもらい、議事録にて報告するとともに、ミーティングで再度確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修(ミーティング)時に学ぶ機会を作っています。参加できないスタッフにも回覧研修を実施し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご利用者様・ご家族に説明し、了承を得た上でサインを頂き、質問があれば口頭にて説明を行い理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議議事録、毎月のお便りを発行し、面会時は電話にてコミュニケーションを取り、日頃からの意見、要望をお聞きし、運営に反映させる様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われるスタッフ会議でも常に意見要望を聞く機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に自己評価を行い面談を行って、目標、要望、やりがいなどを聞き、向上心を持って働けるよう、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行い、研修を受けやすい環境を整え、研修内容については勉強会で報告し、他スタッフとも共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響の為、勉強会の研修に参加する頻度が減っているが、リモートでの研修に参加し交流や意見交換を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを出来るだけとり、ご本人が今、何に困っているのか、不安なこと、要望を引き出し、ご本人様に安心して頂けるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナウイルスの影響のため、窓越しでのご家族と会話をする中で、困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族には、面会(窓越し)の際に必ず近況報告をすると共に、今現在、家族は何を支援してほしいのかを見極めサービス内容を支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事、出来ない事を把握し、職員と一緒にお手伝い等を行って頂き、共に支えあっていく関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での生活をご家族に電話、面会時に報告することで、ご家族と一緒に支えていけるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との写真や思い出の物、自宅で使われていた家具を持ってきて頂き、居室へ飾ったり、設置したりして支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲がいい利用者同士は隣に座って頂いて、会話を楽しんで頂いたり、洗濯物をご利用者と一緒に出来る様に環境づくりに努めている。必ず一人が孤立しないように一つのテーブルに2人以上ご利用者がいるようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、電話にて、ご本人、家族の経過をフォローしながら、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションの中で、一人ひとりの希望や思いを聞き、意向の把握に努め、ご家族と相談しながら本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にセンター方式のシートをご家族に記入して頂きご本人様との会話の中でも生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のD4シートに記入を行うことで、一人ひとりの1日の過ごし方。心身状態の変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様との日々の会話の中や、言動にも手がかりを見つけ、ご家族面会時などに意見やアイデアも頂き、カンファレンスなどで意見交換などを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアの実践については記録に残しており、利用者の行動、言動の意味に対しては、気づきやその時の気持ちを、日々の記録に残し、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況、変化に対しては、ご家族の状況も踏まえながら、出来る範囲内で柔軟なサービス提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響もあり地域の方々へ向けて活かせることが少なくなったが地域のお祭りや行事に参加出来るように少しずつ参加できるようになった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入所前より、かかっておられた主治医の往診を希望される方には、かかりつけ医との良好な関係を続けられるよう支援しています。また、紹介する主治医も数名おり、ご家族との相談のうえ適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや看護日誌などに看護師との情報の共有を行っており、医療に関しては、看護師に相談し、主治医の指示のもと支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	複数の医療関係と連携しており、入院された場合、面会時病院関係者（医療ソーシャルワーカー等）と情報交換を行い、早期の退院に向けての相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で重度化した場合、終末期については、ホームの方針を伝えている。重度化した場合は、早い段階で、今後の対応について主治医も含めて、ご家族の意向も踏まえながらホームが出来る事を十分に説明し、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命、応急のマニュアル本を設置しており、いつでも見れる状態にある。利用者各自の急変時の対応をスタッフがいつでも確認できる場所に配置してある。定期的にAEDの訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害対策として、災害対策マニュアルとの配置と緊急連絡網を作っている。災害時の緊急避難場所として、月のいずれかを1回通報訓練・避難誘導訓練・消火器訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の生活歴を知ったうえで、一人ひとりの人格を尊重し、場合によっては、周りに人がいないご本人の居室で話しするなど、プライバシーへの配慮を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で、思いや希望を聞いたりしています。入浴の用意を行う時は、ご利用者に洋服を選んでいただき、ご利用者様が選択できる場面を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、ご利用者様の意見を確認しながら、一人ひとりのペースで過ごして頂けるように支援していきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室に来て頂き、ヘアカラー、パーマなど、その人らしいおしゃれができる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響で一緒に食事は出来ていないが、材料の切込み等は手伝いいただいたり、お皿、箸などを並べて頂いたりしている。またベランダでのお食事会も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取をチェック表へ記入することで、一人ひとりの摂取量の確認ができ、状態に応じた食事形態を提供支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声掛け、口腔内確認で口腔ケアの介助支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入を行いながら、排泄パターンの把握に努め、訴えがない方も、トイレでの排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつを水分の多い果物(みかん、りんご)アイスなど提供したり、個別対応にて水分補給を、ご家族が、昔から飲んでいたヤクルト等を持ってきて下さったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、2日に1回は入って頂くようにしていますが、希望されるときは毎日だったり、その時間に合わせ入浴を実施し、ご利用者一人一人に合わせた入浴プランを立てています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、リビングや居室で好きなように過ごして頂いたり、その時々状況に応じて、レクリエーションに参加したり、個別の取り組みを行ったり、居室で休息をしていただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報で働きがわかるものを各利用者様のファイルに保管確認し、職員が確認できるように整えています。ご利用者様の薬の追加、変更等があった時には、申し送りにて伝達しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、ご利用者様の生活歴、できる事、できない事を情報共有し、ご利用者様が役割を持って張り合いや喜びのある生活ができるように支援していきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響のため、外出は行うことが出来なかったが、天気が良く暖かい日にはベランダに出て外気浴や定期的にお食事会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持されている方は、いらっしやらない。希望があれば添うような支援はしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様宛てに届いた郵便物を職員よりお渡ししたり、ご利用者様の希望があれば、電話でのやり取りができる支援体制を整えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・四季の花や、リビングに季節に合った絵を飾る等している。 ・全ての窓にフィルムを貼り、室内の温度を調整すると共に激しい日光の光を遮断している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席は、気の合った方同士が、一緒に座れる様にし、ご利用者同士で話等ができるようにしており、席を考え工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前よりご利用者が使っておられた馴染みのある物、使い慣れた家具など出来るだけ、持って来て頂き、思い思いに過ごせる様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はして頂き、出来ない所はお手伝いしながら、安全かつ自立した生活に近づける様、工夫している。		